

「未来の地球を創るもりづくり」について 2010.11.08/本会議

(かのう) 今、地球温暖化防止や環境保全に果たす森林の役割は極めて重要で、森林を守り育てていくために、長い年月と関係者の大変な努力が必要なことは知ってのとおりであります。先日のCOP10の開催など、地球環境保全への取り組みも世界的なものとなります。今後、温暖化防止や生物多様性の確保などの地球環境問題に対応していくためには、行政や関係者だけでなく、県民が未来に向けての大きな課題と認識した上で、身近なところで意識し、行動していくことが必要なのです。

こうしたことから、県民一人一人が、木を植えること、育てることといった森林づくり活動が、将来の地球のために、未来の子どもたちのためにも、どんなに大切かをわかってもらいたいと考えています。今、ムクドリ的大量発生、クマの出没、イノシシの出没、河川のはんらんなどの自然災害もふえています。自然界への畏敬の念がなくなりつつある現代では、他人に迷惑をかけるということで、町中の住宅地からは落葉樹が姿を消し、落ち葉が出ない、枝がはびこらない、小さな木しか育たない、寂しいまちになっています。私は、感性豊かな子どもたちには、自然の大切さ、環境についてなど、さまざまな活動を通していくことが大切だと思います。そのためには、何かの機会ごとに木を植えていくこと、1人1本植林運動のようなことが大切だと思います。このような森林づくり活動を理解、体験してもらうことは、森林の重要性を学ぶだけではなく、情操教育の観点からも大変有効と考えます。

そこで、農林水産部長に伺います。茨城の豊かな森林を次の世代へと引き継いでいくために、県は「未来の地球を創るもりづくり」にどのように取り組んでいくのか伺います。

(農林水産部長) 将来にわたり地球環境を保全する観点から、近年、地球温暖化防止への関心が高まっており、その主要な部分を担う森づくりの重要性が改めて認識されてきているところでございます。こうした中で、本県におきましても、平成20年度より森林湖沼環境税を創設いただき、県民一人一人の負担のもとに森づくりなどに努めているところでございます。

また、森林湖沼環境税を通じた森づくりへの参加ばかりでなく、実感として森の重要性を理解いただけますよう、今年13日の県民の日には、広く県民の参加を募集し、城里町下古内地区におきまして、枝打ちや間伐などの森林整備体験活動を実施することとしておりますほか、森林ボランティアの方々が、県内各地で取り組んでいます平地林の整備や、親子で参加する森の生き物調査、木工教室などの活動を支援しているところでございます。

さらに、子どもたちに参加いただく取り組みといたしましては、毎年各地の小中学校におきまして、間伐やシイタケ栽培などの森林、林業教室を開催し、

年間約 5,000 人の子どもたちの参加を得ておりますほか、夏休み期間中には、小学校 4 年生から 6 年生の児童と保護者の参加を得まして、間伐や木工工作などの体験活動を実施しており、毎年約 400 名の方々に夏休みの思い出としていただいております。県といたしましては、今後とも県民一人一人に身近に参加いただける森づくりの機会を設けることにより、社会全体で地球環境を保全していく機運の醸成に努めてまいります。